



JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 日本自動車リサイクル部品協議会との合併協議について・酒井代表メッセージ … P1
 □自動車メーカー・車体メーカー工場見学会 … P2 □第12回アジア自動車環境フォーラム … P3
 □自動車リサイクル士制度認定講習会 … P3 □鉄スクラップ最新情報 … P4 □行事予定・お知らせ … P5

vol.129

日本自動車リサイクル部品協議会との 合併協議について

01

日本自動車リサイクル機構と日本自動車リサイクル部品協議会は、業界団体としてのあり方について、これまで協議を重ねてまいりました。その間、支部制の導入や団体会員の創設など組織の見直しも並行して実施しており、会員の皆さまには、大変なご苦労とご支援を賜り心より感謝しております。協議の結果このたび一定の合意を得ましたのでご報告いたします。

当初、日本自動車リサイクル部品協議会が解散し、日本自動車リサイクル機構に合流する形での組織を目指しておりましたが、日本自動車リサイクル部品協議会のみに加盟している会員の問題や会費等の問題など、課題が残り全てを解決するに至りませんでした。

そのため将来に向け組織一体化は目指すものの、100年に一度の大変革期に対応するためには組織の一体化より活動の一体化を優先すべきという観点から、日本自動車リサイクル部品協議会が組織を残しつつ日本自動車リサイクル機構の団体会員として加盟することになりました。

今後の活動を通して、引き続き諸課題に取り組んでまいりますので、会員の皆さまのご理解を賜れば幸甚です。よろしくお願ひします。

一社) 日本自動車リサイクル機構
代表理事 酒井 康雄

巻頭言

日本中に感動と希望をもたらし、こんなすばらしいスポーツがあったのかと楽しませ、世界の多くの人々を熱くした2019ラグビーワールドカップ。惜しくも日本代表は南アフリカに準々決勝で敗れましたが、鹿児島出身の中村亮土選手を連日応援をしました。また、南アフリカの選手は大会前に鹿児島で合宿しており、イングランドとの決勝戦にも熱が入りました。大会は、南アフリカが3度目の優勝で幕を閉じ、最後まで諦めないプレイにとっても感動を受け、最後まで諦めないプレイに勇気をいただきました。

〈広報部会 伊地知 志郎〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: http://www.elv.or.jp/

極東開発工業株式会社・横浜工場、いすゞ自動車株式会社・藤沢工場見学会

令和元年11月13日に、極東開発工業株式会社の横浜工場、並びにいすゞ自動車株式会社の藤沢工場の見学会が日本自動車工業会・日本自動車車体工業会主催で行なわれました。日本トラックリファインパーツ協会からも参加者があり総勢31名でした。この見学会の趣旨は、架装物の製造現場を見て互いの業務を知り、情報交換の場を持つことにより、さらなるリサイクルを促進することにあります。

極東開発工業株式会社・横浜工場では、大型車から中小型車まで、トレーラーを除く全機種を生産しています。神奈川県の中中部に位置する大和駅からは徒歩圏内で、住宅街、商業施設に囲まれた立地環境の中、狭い敷地面積を最大限有効活用する工夫をしている工場です。社屋は、トラックの箱車を模したユニークな外観となっています。

昨今の人手不足から、多数の外国人の方がこの工場に従事しています。そのため、社内ポスターも数カ国語で案内され外国人従業員に対する指導姿勢も大変参考になりました。

また、同社では「技術と信用を重んじ一致協力して企業の生々発展に努力し広く社会に奉仕する」という経営理念に基づき、地域活動への積極的な参加やお客様だけでなく地域小学校の児童まで多くの見学者を受け入れ、広く社会に貢献されています。



〈工場内の随所に設置された多言語のポスター〉

〈児童からの御礼の手紙〉

いすゞ自動車株式会社・藤沢工場は1962年に操業開始。主に大型/中型/小型トラックの組立を行っています。研究施設も併設したこの工場は『いすゞのマザー工場』の位置づけであり、この工場のものづくりの理念が世界中の工場に水平展開されていきます。

工場には約350人の外国人実習生が従事しています。今回の見学では小型トラックの生産ラインを案内していただきました。ロボットのみによるフロントガラスの接着、ロボットと工員が役割を分担しながらのエンジン・キャビンの取り付け等々を間近で見ることができました。自動化率の高さと同時に手作業の工程もまだ多く、その二つが綺麗に融合したようなライン工場だという印象を強く受けました。

2017年、藤沢工場に隣接地に創立80周年記念事業の一環として企画・建設された『いすゞプラザ』。

いすゞの名車が多数展示されています。1968年生産の初期型「117クーペ(右)」、1924年「ウーズレーCP型(左)」。いすゞの原点となる、現存する同社最古のトラック。



■いすゞプラザ

〒252-0881 神奈川県藤沢市土棚8

<https://www.isuzu.co.jp/plaza/index.html>



10月29日(火)、30日(水)の両日に渡り、「第12回アジア自動車環境フォーラム (AAEF)」が熊本市において開催されました。日本自動車リサイクル機構の代表としてフォーラムに参加した報告をさせていただきます。

本フォーラムは、NPO JARA が中心となり、アジア・オセアニア各国の自動車リサイクル業界団体に働きかけ、今回12回目の開催となります。各国の持ち回りで、日本での開催は3回目となります。参加国は、日本、韓国、モンゴル、中国、マレーシア、インド、オーストラリアの7カ国。130名以上の方が参加されました。

フォーラムのテーマは、「自動車リサイクルにおけるSDGsの実現に向けて」。私達が今直面している課題は、自動車産業の変革にせよ、持続可能な社会の形成にせよ、一国のみで達成されるものではなく、国際的な協調が求められることは明らかです。その観点から各国の業界の取り組みを発表し理解を深める事ができた事は意義深いものでした。

また、会議に先立ちファクトリーツアーが企画され、カネムラエコワークスさん、ARホシヤマさんを訪問し、ELVの解体処理から部品流通工程を自国と比較しながら興味深く、また先進性に感心しながら見学していました。

世界をリードする日本の車産業として、生産のみならず、リサイクルの場面で先進的な取り組みを進め、リーダーシップを発揮するべきと思いました。

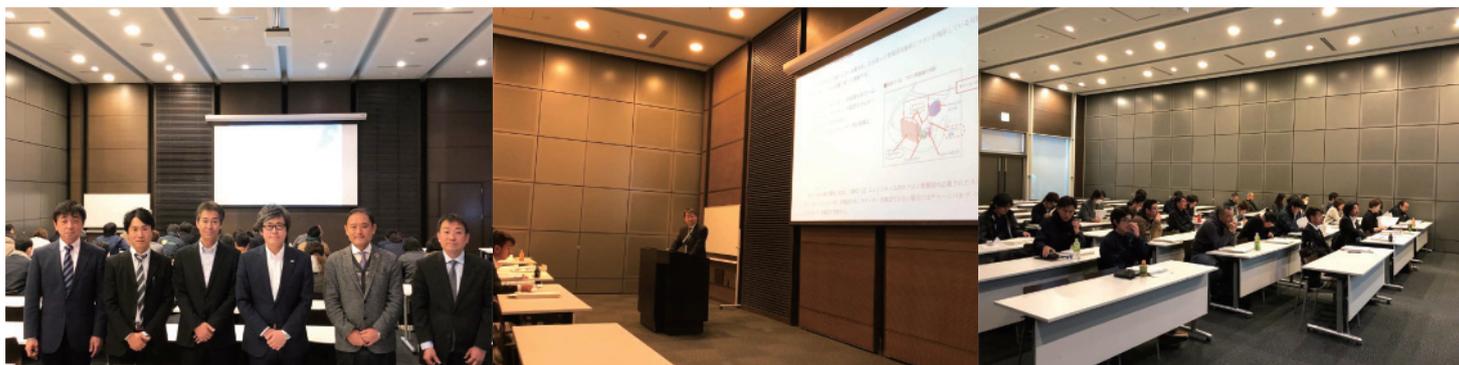
最後に、本フォーラムを企画運営されたNPO JARAの皆さまと熊本県の皆さまには敬意を表し、心より感謝申し上げます。

自動車リサイクル士制度認定講習会

— 盛岡会場 —

11月20日(水)～21日(木)、今年度第2回となる「自動車リサイクル士制度認定講習会」を盛岡会場(いわて県民情報交流センター)にて開催しました。

当日は、受講者30名、経産局や関係団体からの講師・関係者9名、計39名が参加。また、受講者のうち非会員の方が9名受講される結果となりました。



11月第4週(21日)の鉄スクラップ動向



11月21日の国内スクラップ炉前実勢価格 (中心値)

		H2	気配
関東	北関東	22,500 ~ 23,500	堅調
	南関東	22,500 ~ 23,500	堅調
名古屋		22,000 ~ 23,000	強含み
関西	大阪	23,000 ~ 24,000	強含み
	姫路	21,500 ~ 22,500	強含み

国内市場 値上げ広がり11月19日から500円どころ続伸

国内電炉の間に11月19日、鉄スクラップ購入価格を1トあたり500円どころ値上げする動きが広がり、国内相場は続伸した。一部電炉は19日時点での値上げ改定を見送ったが、全国的に相場は続伸しており、後日、値上げ対応を実施しそうだ。堅調な海外・輸出相場に比べて国内相場にはまだ上げ余地があるとの見方が大勢を占めるため、当面は堅調な相場が続くと予想される。

東京製鉄は19日、田原工場の新断類・ドライ粉類を1,000円、その他500円、他の拠点は全品種500円値上げした。これを受けて、全国の電炉や湾岸商社・シッパー筋の間に値上げ改定が広がった。海外・輸出相場の値上がりに加え、14日からの値上げ改定が広がった後、市中に先高観が強まったことで、市中スクラップの荷動きが鈍化している。こうした中、電炉筋や湾岸ヤード筋は必要量を確保するため、引き合いを強めざるを得なかった。また電炉筋の間には、減産下にあるものの、鋼材相場を支えるために鉄スクラップ相場の値上げを受け入れる余地もあったとみられる。

【関東地区】 電炉買値、浜値とも続伸 炉休などで需要量は大幅

関東の鉄スクラップ市場は、電炉買値、浜値とも続伸した。ただ、19日からの電炉筋の値上げ改定が半数にとどまったため、電炉買値は浜値に対し500円どころの安値が残る。関東電炉各社が減産に取り組んでいることに加え、11月下旬から長期の工事炉休を実施する筋もあるため、鉄スクラップ需要量が大幅に減少しているのが現状だ。11月21日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は22,500～23,500円中心。浜値は23,000～23,500円中心

【東海地区】 20日までに電炉の再値上げが一巡

東京製鉄・田原工場は11月19日から500～1,000円の値上げを実施。これを受け、名古屋地区の電炉筋の値上げ改定が20日までに一巡した。業者間には「輸出価格との開きがあることから市況はさらに修正上げへ向かう」との見方があり、様子見対応の筋が多く足元の荷動きはなお鈍い。電炉間には入荷のバラつきも見られるが、今のところ需給関係を不安視する声は少ない。11月21日時点のH2炉前実勢価格は22,000～23,000円中心。

【関西地区】 域内市況は強基調 タイト感続き先高気配

大阪地区の鉄スクラップ市況は強基調を保っている。域内電炉の鉄スクラップ需要はそこまで旺盛ではなく、上昇基調がいつまで続くかは予測しづらいが、足元は湾岸筋による購入継続があり、また目先にも共同輸出が控えており、ヘビー類を中心にタイト感が続く。このため市場は先高気配を保ったまま11月下旬入りとなりそうだ。11月21日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が23,000～24,000円中心、姫路地区が21,500～22,500円中心

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月21日午前時点のもの)

行事予定

December

— 12月の主な行事予定 —

- 12月10日(火)
第3回地域ブロック長会議
- 12月11日(水)
第3回自動車リサイクル推進会議
第7回常任役員会
- 12月17日(火)
関東ブロック会議
第9回広報部会

お知らせ フロン類回収業者の皆さまへ

平素はフロン類回収業務にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、ボンベ/パレットの運搬業者が、2020年1月から日本通運(株)に変更となります。つきましては、年末年始のフロン類引渡しについて、下記をご留意いただき、お早めに集荷を手配いただきますようご協力をお願いいたします。

1、年末の集荷日程 — 年末の集荷日程スケジュール

webによる集荷依頼最終日	2019/12/18(水)
電話・FAXによる集荷依頼最終日	2019/12/19(木)
ボンベ/パレット年内最終集荷日	2019/12/20(金)

※離島の集荷最終日は12/12(木)となっております。詳しくはTEL:0120-260-994へお問い合わせ下さい。

2、年始の集荷再開日

「年末の集荷日程スケジュール」以降に集荷依頼を行った場合は、最短でも1/8(水)の集荷となります。

3、集荷受付窓口(※連絡先に変更はございません。)

年内の営業は12/25(水)17:00までとなり、年始の営業は1/6(月)9:00からとなります。

4、指定引取場所の変更

2020年1月より以下事業所所在地のフロン類回収業者様は、ボンベ/パレット引渡し先の指定引取場所が変更となります。詳細につきましては12月中頃に別途ご案内致します。(富山県・茨城県・埼玉県・長野県・岐阜県・福井県・石川県・静岡県・愛知県・三重県)詳しくは、自動車再資源化協力機構ホームページ(<http://www.jarp.org/>)をご覧ください。

編集後記

カレンダーに目を向ければもう師走。今年もひと月残すのみとなりました。思い返せば、さまざまな出来事や天災、市況低迷が重なり、今年は何かと試練が続き、慌ただしく過ぎたように思います。来年こそは平穏無事に、また商売繁盛といきたいものです。

さて私事ですが、先日、シリコンバレーに行きまして。この地はもともと果樹園を中心とした農作地帯でしたが、いまや世界最大のIT先端技術発信の地として名を馳せています。多くの日本の企業がこの地で、将来を見据えた技術革新を進めています。特に注目すべきは大手企業の再生可能エネルギーへの取り組みでした。

大手石油会社、ガス会社がこぞって電気事業に参入しようと準備を進めています。超大手石油会社は2030年までに世界最大の電力会社になることを公言しています。生き残るための執着、これまでの歴史やこだわりを捨てトレンドを逃さないエネルギーには驚かされます。自動車業界も100年に一度の改革と言われた今年、果たして我々は何を改革したのか。掛け声だけでは何も変わらないのは分かっているのですが……。

(広報部会 部会長 永田 則男)